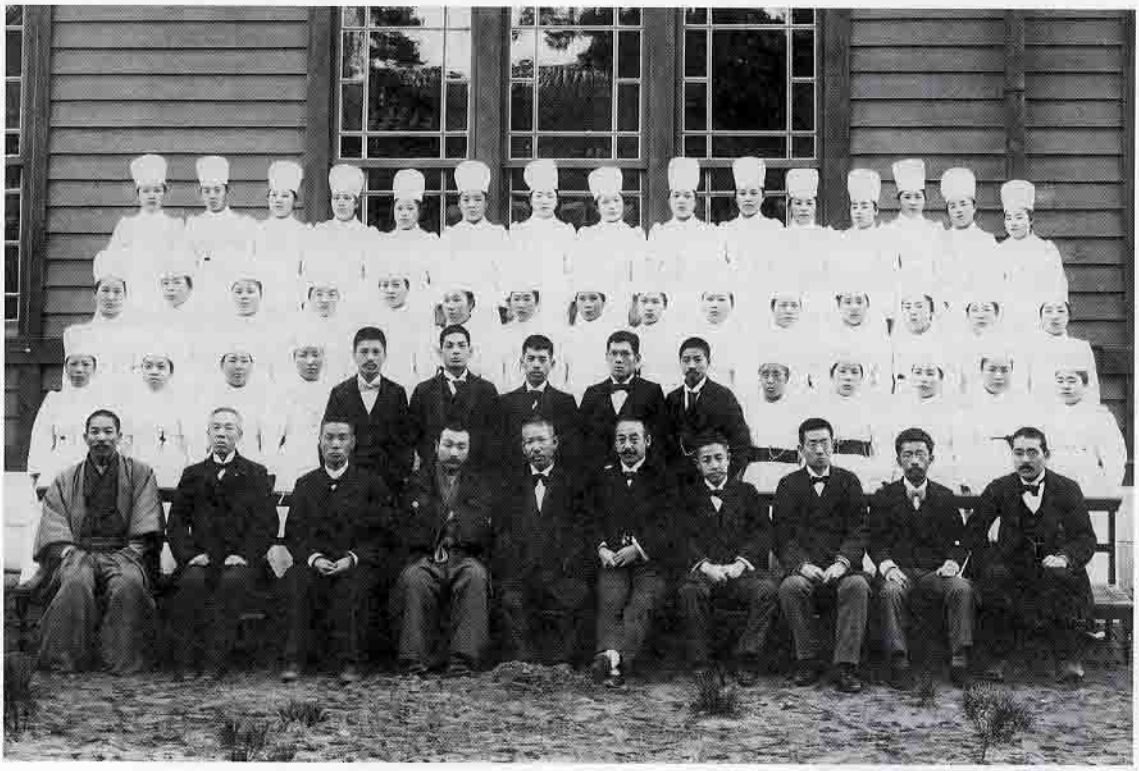
ISSN 0919-4339

# 九州大学
# 大学史料室ニュース

第23号　2004. 3. 31.

目　次

「杏林之栞」からみた九大創立前後……2
名古屋大学におけるアーカイブズ組織……4
九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿…6
九州大学大学史料室名簿……6
受贈図書一覧……6
大学史料室日誌抄録……9



県立福岡病院看護婦養成所第５回生記念写真（1901〈明治34〉年３月５日。原寛氏所蔵）

医療技術短期大学部等の源流になる県立福岡病院看護婦養成所第５回生の記念写真である。京都帝国大学福岡医科大学（1903年４月創設）の母体となった県立福岡病院（現病院地区）時代の写真はあまり残されていないので、その意味でも貴重なものである。前列左から５人目が、大森治豊病院長（後、初代福岡医科大学長）。右隣は熊谷玄旦（後、医科大学教授内科学）、左隣は伊東祐彦（同じく医科大学教授小児科学）。また伊東の左は、1899年（明治32）初頭に医科大学誘致運動の口火を切ったことで知られる修猷館長隈本有尚である。隈本が写っている理由は不明だが、撮影当時は誘致運動の最中にあり、あるいはこれに何か関連したものだったのかもしれない。

# 「杏林之栞」からみた九大創立前後

小林　晶

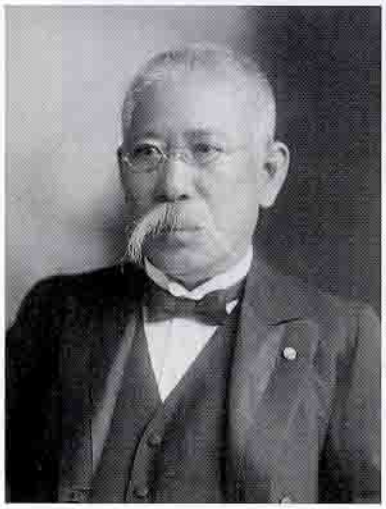
九州大学医学部は平成15年（2003）創立百周年を迎えた。創立時、京都帝国大学福岡医科大学の名称であったが、後に数回の変遷を経て九州大学となる。創立前後の歴史については既に多くの論述があるので、本稿では「杏林之栞」からみた側面史あるいはエピソードを記してみたい。

後に京都帝国大学福岡医科大学の初代学長となる大森治豊（1852－1912、下写真）は、明治12年（1879）東大を卒業して直に福岡医学校に招聘された。スタッフの努力によって明治21年（1888）4月県立福岡病院に発展し、大森は初代院長に就任する。明治18年（1885）にはわが国最初のポロー式帝王切開術を池田陽一と行うなど、その技術的名声は全国に拡がった。

この基盤があってこそ大学誘致が成功したと言っても過言ではない。

大森は明治22年、県立病院と県内の開業医との相互の交流を目的とし「玄洋医会」を設立した。この会の月報が「杏林之栞」である。6月18日第1巻第1号が発刊された（次頁に第1巻第2号の写真を掲載した）。

国家の発展とともに東京、京都に次ぐ新帝国大学の設立計画が澎湃として起ってきた。これより以前、長崎は蘭学のメッカであって、明治元年(1868)には伝統をひき継いだ長崎医学校が既に開校していた。さらに明治20年(1887)8月、第五高等中学校医学部が設立された。時おりしも福岡医学校が廃止され、県立福岡病院がこれより後の明治21年に設置されたことを考えると、福岡の医学教育の後進性は憂慮すべき事態であったといえる。



大森治豊(1852-1912)。県立福岡病院院長、後に京都帝国大学福岡医科大学初代学長。

熊本は九州の中央に位置して幕末からの医学所が存在し、明治4年には熊本医学校となっていた（北里柴三郎の出身校）。明治25年（1892）3月には九州医学会が設立され、事務局は熊本病院に置かれた。同年5月の第1回総会が熊本で開催された経緯をみても、熊本県人の自負は大きかった。

福岡とこの2県の新大学誘致合戦が開始されることになる。どうみても衆目は福岡の劣勢は避け難いと考えていた。

因みに、「杏林之栞」は大学開学に際して、明治36年（1903）4月30日、第15巻、第4号で廃刊になった。最終的には800部が発行されていたから、ほとんどの県下の医師が目にしていたことになる。

明治32年、第11巻、第2号には「九州大学と太宰府」と題して次のような論説がある。「大学増設論又々起こる頃日、教育界の泰斗杉浦重剛氏論して曰く、現時競争の中心となれる、九州大学に関して一言する所あらん。余輩は太宰府を以て最も適当なる地となすものなり。其の北部九州に於ける地位よりするも、其の歴史的の名地よりするも交通の便否よりするも毫も不可なきを信ずと。ああ、太宰府なる哉、太宰府なる哉。其の歴史的関係は明かに教育の好良地たるを示せり。福岡人士何ぞ冷々澹々（たんたん）たる。」とある（読み易いように筆者が句読点を入れ、旧漢字中には当用漢字に訂正したものがある。引用文以下同じ）。

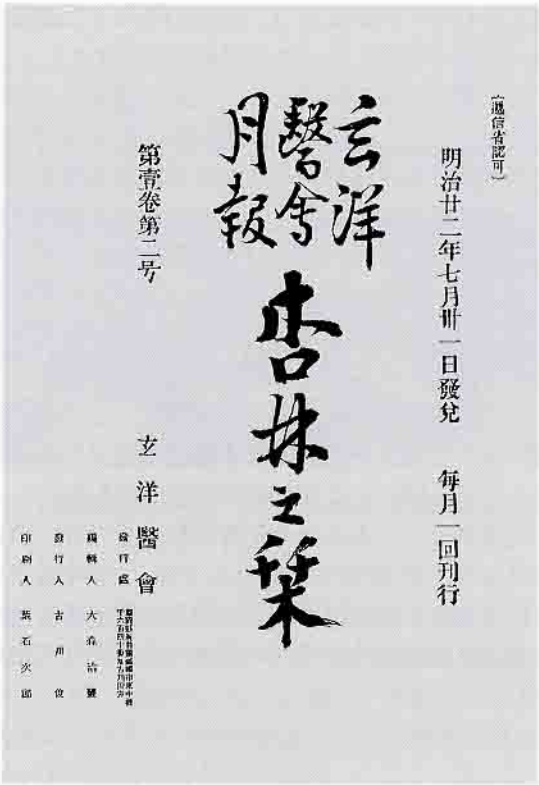
明治34年（1901）発行、第13巻第2号には「県立熊本病院移転式」と題し、盛大な移転式典の模様を述べ、すぐ後に『医海時報』の記事として「九州大学と熊本及び福岡」が掲載されている。少し長いが当時の雰囲気を知る上で大切なので、全文を引用する。

「文部省は明年度（明治35年）に於ては、是非共九州大学の計画を立つる由なるが、右設置地に就き早くも熊本及び福岡の両市に於て、隠然競争の態を現わし来りたりという。今、某関係者の観察によれば、目下の形勢は殆ど熊本に決したるが如し。是れ熊本は其の出身者中に有力者多く、在朝在野とも運動の便ある結果なり。然れども其の実力に於ては福岡は遥かに其の上に在り。現に福岡県には、同地に大学を設置せられんには、其の設備費として敷地及び金壱百万円を寄付せんとの意気込みあるのみならず、尚将来の成行に依りて

は二百万円迄は（数年の継続費）県の経済より支出せんとの決心あり。尤も熊本市に於ても百万円迄寄付せんとの意気込みありといえど、金力の競争に至らば福岡に敵すべからず。ただ同県は上述の有力なる出身者あるを以て他を屈するの力あるなり。殊に福岡県知事深野一三氏は熊本県人なれば、此の間の運動に就ては、生国の関係上県地の為めとは云うものの、余り目醒ましき運動も出来ざる所なるべし。蓋し深野知事と此の大学問題は、少なくとも其の一身上を危ふするの一因たらんか。之を熊本県人より云えば、知事が福岡の為尽力するは愛郷心に乏しき所にて、福岡より云えば若し知事の運動不熱心にして熊本が勝利を得たらんには、彼れ福岡を売れりとて、県地の輿望忽ち地に墜つるならん。以是卜知すべし。此の深野氏が熊本県知事に転ぜらるる時は、即ち熊本が九州大学の設置地と成るの時なるを。之につき大森氏の如きは、若し大学が熊本に奪はるる場合には福岡は別に私立医科大学を設け、大いに活動せんとの意気込みにて、目下の病院費用の上に十万円を増加する時は、立派なる私立医科大学を組織し得べしと云えり。而して又熊本の谷口氏等を始め学士諸氏等は、大いに奮って私立医学校の規模を改め、行々は私立医科大学迄に達せしめんとの意気込みなりときく。兎に角九州大学地の決定は、我医学社界に好望なる影響を与ふるとの必せり云々」と熊本の優位を内心認めつつも、これからが誘致の本番に入るとの憶測が知りえて興味深い。

明治34年（1901）の12号にはさらに、「再び九州医科大学に就いて」の論説がみられる。これは東北地方も帝国大学の候補地として名乗りを挙げ、運動を開始したことに言及したものである。

「（前略）吾人が一つの杞憂にも非ざるべしと唱道せし東北人士の不平運動は、果然事実となれり。文部当局者が其の設置地をいよいよ福岡に決定せし以来、地方的感情に駆られ躍起となれる熊本、及び羨望の位地に立てる長崎と陰かに気脈を通して協同連合し、強て自己の地域に設立せしめんとし、若し能わずんば之を否決するに如かずとの非理なる私情を抱懐し、一面に大学設立の必要を叫びつつ一面には之を破壊せんとす。これが為に一時は非常の障碍を与えられんとせしか。今や文部当局者の其の所見を動かさざりしと、非理なる地方的感情の識者間に排せられたると東北地方の交渉有望なるとは、遽に春風一路の看を呈するに至れり。吾人は其の設置地の熊本たると長崎たると、将又福岡たるとを問わず、只しかう眼前に


（通信省認可）
明治廿二年七月卅一日發兌　毎月一回刊行
玄洋醫會月報
杏林之栞
第壹卷第二号
玄洋醫會
發行處
編輯人　大森治豐
發行人　古川俊
印刷人　熊石次郎

「杏林之栞」表紙　第１巻、第２号
明治22年７月31日発行、発行人の古川俊は県立福岡病院の近くに写真館を開いていた古川俊平の長男で、東大卒業後県立病院外科部長を勤めた。後年唐津病院院長に就任した。

迫れる緊要問題が平然に通過せんとするの状あるを報ずるを欣ぶ。然れども政海の暗潮反復常なく往々不測の障碍に逢うことあるを以て、未だ注意を怠るべからざるなり。記し終る時〔以下空白〕

忽ち飛報ありて曰く、九州医科大学設置（福岡）の件は、本日の衆議院予算会議に於て大多数を以て通過したりと」感激の一言でコラムを終わっている。

明けて翌明治35年（1902）の第14巻第１号には「医科大学と貴族院」と題してのコラムがある。

「一時紛擾を来さんとしたる下院の九州医科大学案も中途各自の反省による非理なる地方的感情を排し、首尾好く下院を通過したるは、吾人既報の通りなるが、該案は今や上院に廻付せられ、同院内にて最も混戦を想起すべき問題たらんとせり。即ち其の位地を熊本に移さしめんと熱中せる松平氏は幸倶楽部を説き、清浦氏は研究会をまとめ、熊本説に内決せしめたるのみならず、一方には船越氏等の東北大学設置派あり、又谷氏等の大学設置不必要派ありて、互に同志を勧誘し運動怠りなきと云う。吾人は由来公平を以て自ら許せる同院にして、却て地方的関係多き下院の公平なる態度に及ばざるを怪しむ」と未だ自信なく、周囲を見

回しあたりを伺いながら、政治の公平さに頼る以外にないと嘆息している有様が彷彿とする。

しかし、同年発行の3号には愈々福岡に大学設置が決定したとの朗報を掲載している。

「……上院に廻付せられ頗る困難の事情ありしも大勢既に福岡に設置すること定まり、予算委員会に於て可決したれば最早大学設置は動かず。可ならざると思いの外、（中略）いよいよ九州医科大学は福岡に設置することに確定するに至れり。而して、同大学創立予算総額は百参拾壱万円余にして、向こう五ヶ年間に支出する筈にて、来る（明治）三十五年度即ち四月より建築に着手すると云う」という弾けたような喜びの記事がある。

当事者にしてみれば心配事は続くもので、第15巻第1号（明治36年）に至っても、「本年度より開校の筈なる福岡医科大学の建築は着々歩を進め巍然たる高厦緑なす千代の原頭に突如として偉観を添ゆる近きにあるべし。しかも議会の解散はここに意外の一頓挫を来し、予算不成立の為、大学の経費烏有に帰し其の成行に就きて憂慮する所あり……」と心配の連続であった。しかし、この問題は大学の開学は約束され、臨時予備金よりの支出でしのぎ、第十八回議会で追加予算の成立をみて解決した。

これに続く記事には長崎病院が3月に落成し開院するとあり、歴史の皮肉を感じる。

このように開学の間際まで福岡市での大学誕生は難産であった。歴史に仮定は許されないが、もし大森以下の医学的業績、福岡県の大きなバックアップ、市民が各戸に零細な寄付金を積極的に集め、有力者がリードしなかったら、福岡の地での帝国大学の創設は起こりえなかったであろう。

（福岡整形外科病院顧問/日本医史学会会員/
日本整形外科学会名誉会員）

# 名古屋大学におけるアーカイブズ組織

山口拓史

## はじめに

名古屋大学では、1989（平成元）年に創立50周年を迎えるのに際して記念事業が企画され、1985年に名古屋大学創立50周年記念事業委員会が設けられた。この記念事業の一つに、名古屋大学としては初めての大学史編纂が盛り込まれ、名古屋大学史編集委員会と同委員会の下に名古屋大学史編集室が設置された。この大学史編集室が1996年に名古屋大学史資料室へと移行し、次いで2001年の一部改組を経て、現在の大学史資料室となった。そして、大学史資料室は2004年度から大学文書資料室に改組され、アーカイブズ組織としての新たな一歩を踏み出すことになっている。

本稿では、名古屋大学におけるアーカイブズ組織としての大学史資料室の概要を紹介するとともに、新組織である大学文書資料室がめざす方向についても可能な範囲で触れておくことにしたい。

## 大学史資料室の概要

沿革史編纂専業組織としての大学史編集室がアーカイブズ組織としての（名古屋）大学史資料室へと移行する過程においては、その先行事例である東京大学および九州大学から非常に多くの示唆を得た。その時点において、大学史資料室は、名古屋大学固有の事情がある中で、両大学から学んだことを可能な限り取り込んだ組織であったといえる。その概要を列挙すると、第一に、大学史資料室はアーカイブズ組織として親組織（名古屋大学）に関わる歴史的な資料を恒常的に収集し、整理・保管することを業務としている。第二に、個人の秘密保持等や寄贈・寄託条件に反しない限り、保管資料は原則として公開することを前提とした組織である。第三に、大学に設置される組織として、学内各部局の教育研究支援を行うとともに、学外への情報発信を行う組織である。

名古屋大学大学史資料室刊行物

二つの業務は、組織体における記録のライフサイクル（現用記録→半現用記録→非現用記録→記録史料）に基づくものとして設定されている。そして将来的には、「シームレス型記録管理システム」が構築され、それら二つの業務が一元的に展開されることが目指されている。

おわりに

おそらく全国の国立大学がそうであるように、名古屋大学でもここ数年、とりわけ今年度は、2004年度からの国立大学法人化に向けた準備が慌しく進められた。名古屋大学の場合、その準備過程において、大学史資料室から大学文書資料室への改組が実現したといえる。しかし、いわゆる情報公開が社会的通念となりつつある今日において、大学における情報公開（情報開示制度への適切な対応と大学情報の積極的な公開など）は、本来的には今回の国立大学法人化とは異なる次元の問題であり、情報公開社会における大学の存立に関わる課題の一つであると考えられる。その点において、その呼称はともかく、アーカイブズ・セクションを備えた大学が今後増えるであろうことは想像に難くない。2000年11月の京都大学大学文書館の設置をはじめ、現在、北海道大学・東北大学・金沢大学・名古屋大学・広島大学・九州大学などでアーカイブズ組織の設置が検討されていることが、それを物語っている。

（名古屋大学大学史資料室助手）

## 九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 副学長 | | 有川　節夫 |
| 副委員長 | 人環院 | 教授 | 新谷　恭明 |
| 委員 | 人文院 | 助教授 | 佐伯　弘次 |
| 〃 | 比文院 | 教授 | 有馬　學 |
| 〃 | 言文院 | 助教授 | 鈴木　敦典 |
| 〃 | 理院 | 助教授 | 粕谷　英一 |
| 〃 | 医院 | 教授 | 野瀬　善明 |
| 〃 | 医院 | 教授 | 笹栗　俊之 |
| 委員 | 工院 | 教授 | 渡邊公一郎 |
| 〃 | 農院 | 教授 | 村田　武 |
| 〃 | 総院 | 教授 | 松永　信博 |
| 〃 | 応研 | 助教授 | 広瀬　直毅 |
| 〃 | 博物館 | 教授 | 岩永　省三 |
| 〃 | 総務部 | 部長 | 安間　敏雄 |

（2004年3月1日現在）

## 九州大学大学史料室名簿

| | | | |
|---|---|---|---|
| 室長 | 副学長 | | 有川　節夫 |
| 副室長 | 人環院 | 教授 | 新谷　恭明 |
| 専任 | | 助教授 | 折田　悦郎 |
| 兼任 | 人文院 | 助教授 | 佐伯　弘次 |
| 〃 | 比文院 | 教授 | 有馬　學 |
| 〃 | 人環院 | 助教授 | 山野　善郎 |
| 〃 | 法院 | 教授 | 植田　信廣 |
| 兼任 | 法院 | 助教授 | 熊野　直樹 |
| 〃 | 経院 | 教授 | 荻野　喜弘 |
| 〃 | 石炭研 | 教授 | 東定　宣昌 |
| 事務官 | | | 片山　昌彦 |
| 事務補佐員 | | | 松尾　陳代 |
| 〃 | | | 筑紫　啓子 |

（2004年3月1日現在）

## 受贈図書一覧（2003年7月～2003年12月）

激流に生きる　濱正雄
　加藤敬二　1981. 5

七十歳はまだ青春　スーパーおじいちゃんクライマー　世界の山ある記
　脇坂順一　1984. 1

中国の伝統法文化
　武樹臣著　植田信廣訳　2003. 9

不知火の記
　秋山六郎兵衛著　青陵会秋山六郎兵衛先生謝恩記念事業会企画編集　1968. 1

二つの業務は、組織体における記録のライフサイクル（現用記録→半現用記録→非現用記録→記録史料）に基づくものとして設定されている。そして将来的には、「シームレス型記録管理システム」が構築され、それら二つの業務が一元的に展開されることが目指されている。

**おわりに**

おそらく全国の国立大学がそうであるように、名古屋大学でもここ数年、とりわけ今年度は、2004年度からの国立大学法人化に向けた準備が慌しく進められた。名古屋大学の場合、その準備過程において、大学史資料室から大学文書資料室への改組が実現したといえる。しかし、いわゆる情報公開が社会的通念となりつつある今日において、大学における情報公開（情報開示制度への適切な対応と大学情報の積極的な公開など）は、本来的には今回の国立大学法人化とは異なる次元の問題であり、情報公開社会における大学の存立に関わる課題の一つであると考えられる。その点において、その呼称はともかく、アーカイブズ・セクションを備えた大学が今後増えるであろうことは想像に難くない。2000年11月の京都大学大学文書館の設置をはじめ、現在、北海道大学・東北大学・金沢大学・名古屋大学・広島大学・九州大学などでアーカイブズ組織の設置が検討されていることが、それを物語っている。

（名古屋大学大学史資料室助手）

## 九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 副学長 | | 有川　節夫 |
| 副委員長 | 人環院 | 教授 | 新谷　恭明 |
| 委　員 | 人文院 | 助教授 | 佐伯　弘次 |
| 〃 | 比文院 | 教授 | 有馬　學 |
| 〃 | 言文院 | 助教授 | 鈴木　敦典 |
| 〃 | 理　院 | 助教授 | 粕谷　英一 |
| 〃 | 医　院 | 教授 | 野瀬　善明 |
| 〃 | 医　院 | 教授 | 笹栗　俊之 |
| 委　員 | 工　院 | 教授 | 渡邊公一郎 |
| 〃 | 農　院 | 教授 | 村田　武 |
| 〃 | 総　院 | 教授 | 松永　信博 |
| 〃 | 応　研 | 助教授 | 広瀬　直毅 |
| 〃 | 博物館 | 教授 | 岩永　省三 |
| 〃 | 総務部 | 部長 | 安間　敏雄 |

（2004年３月１日現在）

## 九州大学大学史料室名簿

| | | | |
|---|---|---|---|
| 室　長 | 副学長 | | 有川　節夫 |
| 副室長 | 人環院 | 教授 | 新谷　恭明 |
| 専　任 | | 助教授 | 折田　悦郎 |
| 兼　任 | 人文院 | 助教授 | 佐伯　弘次 |
| 〃 | 比文院 | 教授 | 有馬　學 |
| 〃 | 人環院 | 助教授 | 山野　善郎 |
| 〃 | 法　院 | 教授 | 植田　信廣 |
| 兼　任 | 法　院 | 助教授 | 熊野　直樹 |
| 〃 | 経　院 | 教授 | 荻野　喜弘 |
| 〃 | 石炭研 | 教授 | 東定　宣昌 |
| 事務官 | | | 片山　昌彦 |
| 事務補佐員 | | | 松尾　陳代 |
| 〃 | | | 筑紫　啓子 |

（2004年３月１日現在）

## 受贈図書一覧（2003年７月～2003年12月）

激流に生きる　濱正雄
　加藤敬二　1981. 5

七十歳はまだ青春　スーパーおじいちゃんクライマー　世界の山ある記
　脇坂順一　1984. 1

中国の伝統法文化
　武樹臣著　植田信廣訳　2003. 9

不知火の記
　秋山六郎兵衛著　青陵会秋山六郎兵衛先生謝恩記念事業会企画編集　1968. 1

緒方靖哉教授業績集
　緒方靖哉教授退官記念事業会　2003. 5
日本外科学会100年誌
　日本外科学会記念誌編纂小委員会　2000. 9
終戦あと始末
　桑木務　2001. 2
南海に眠る兄—海軍主計少佐　片本清隆—
　片本昌俊　[1993]
「旧制高校経由日本史研究者」考　皇學館論叢第三十六巻二号　抜刷
　山口宗之　2003. 4
入学試験合格者数計算法
　楠浩一郎・松山久義　1988
彦根高等商業学校収集資料のポリティクス　彦根論叢（滋賀大学）第344・345　抜刷
　安部安成［ほか］　2003.11
九州大学研究紹介　No.20
　九州大学研究紹介編集委員会　2003. 3
九州大学医学部附属病院概要　平成15年度
　広報サービス委員会　2003
九大病院だより　第３号～第５号
　九州大学医学部附属病院広報サービス委員会
　2003. 6、2003. 8、2003.10
九州大学医療技術短期大学部概要　平成15年度
　九州大学医療技術短期大学部　2003
九州大学大学院総合理工学府・研究院　研究と教育Ⅳ（自己点検・評価資料集）
　九州大学大学院総合理工学府・研究院 2003. 6
大学教育　第９号
　九州大学大学教育研究センター　2003. 3
Radix（九州大学全学教育広報）No.36～No.37
　九州大学高等教育総合開発研究センター
　2003. 9、2003.12
第51回　九州地区大学一般教育研究協議会議事録
　九州地区大学一般教育研究会　2003. 9
orbit No. 1
　九州大学21世紀プログラム　2003
Kyushu University Foundation　～九州大学の教育・研究を支援する～　財団法人九州大学後援会
　財団法人九州大学後援会連絡事務所
松の実　Vol.38
　九州大学女子卒業生の会「松の実会」事務局
　2003.10
東北大学史料館だより　第４号
　東北大学史料館　2003.11
平成15年度東北大学史料館企画展　大学アーカイヴズへ行こう！—公文書のなかの東北大—
　東北大学史料館　2003
東京大学史史料室ニュース　第31号
　東京大学史史料室　2003.11
金沢大学資料館だより　第22号
　金沢大学資料館　2003. 8
平成15年度金沢大学資料館特別展　大学文書館への招待
　金沢大学資料館　2003
名古屋大学大学史資料室ニュース　第15号
　名古屋大学大学史資料室　2003.10
名古屋大学大学史資料室ワークショップ　第３回アーカイブズのすすめ
　名古屋大学大学史資料室　2003
京都大学大学文書館だより　第５号
　京都大学大学文書館　2003.10
HIGHER EDUCATION FORUM Volume 1　2003
　Research Institute for Higher Education
　Hiroshima University　2003
広島大学高等教育研究開発センター30年のあゆみ
　広島大学高等教育研究開発センター
大学論集　第33集
　広島大学高等教育研究開発センター　2003. 3
コリーグ　No.35～No.36
　広島大学高等教育研究開発センター
　2003. 3、2003.10
大学の統合・連携—大学組織改革の新たな試み—
　広島大学高等教育研究開発センター　2003. 3
高等教育研究叢書　No.72～No.75
　広島大学高等教育研究開発センター
　2003. 3、2003. 9
広島大学文書館設立準備企画　公開プレ・シンポジウム　「大学・編纂・文書館」
　広島大学大学文書館設立準備室　2003
人文論集　第39巻　第１・２号
　神戸商科大学学術研究会・神戸商科大学経済研究所　2003.12
慶應義塾福澤研究センター資料　３～８
　慶應義塾福澤研究センター
　1989. 3、1991. 3、1995. 3、1998. 3、1998.10、2002. 3
慶應義塾福澤研究センター　近代日本研究資料１～８
　慶應義塾福澤研究センター
　1987. 3、1988. 1、1990. 9、1992.11、1994. 3、1996. 3、1997. 1、2001. 1
創立百二十五年　慶應義塾年表
　慶應義塾福澤研究センター　1985. 9

慶應義塾大学部の誕生　ハーバード大学より新資料
　慶應義塾　1983.10
福澤諭吉書誌
　富田正文著　[1964]
近代日本研究　第2巻～第19巻
　慶應義塾福澤研究センター
　1986.3、1987.3、1988.3、1989.3、1990.3、1991.3、1992.3、1993.3、1994.3、1995.3、1996.3、1997.3、1998.3、1999.3、2000.3、2001.3、2002.3、2003.3
史料室だより　第9号
　恵泉女学園史料室　2003.11
駒大史ブックレット1「大学建築事務所日誌」にみる駒沢移転
　駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室　2003.9
駒澤大学禅文化歴史博物館　常設展示解説書「禅の世界」
　駒澤大学禅文化歴史博物館　2003.3
成蹊学園一〇〇年史　年報　第1号
　成蹊学園一〇〇年史編集委員会　2003.3
拓殖大学百年史研究　12号
　拓殖大学日本文化研究所附属近現代研究センター　2003.6
拓殖大学百年史研究　別冊―拓殖大学百年史編纂拾遺Ⅱ―
　拓殖大学創立百年史編纂室　2003.7
井上円了センター年報　第12号
　東洋大学井上円了記念学術センター　2003.7
日本女子体育大学大学院10年
　日本女子体育大学大学院10周年記念誌編纂委員会　2003.10
二階堂学園80年―学園は今―
　学園80年誌編纂実行委員会　2003.10
早稲田大学史記要　第三十五巻
　早稲田大学大学史資料センター　2003.10
関東学院学院史資料室ニューズ・レター　第3号
　関東学院学院史資料室　2003.12
真宗総合研究所研究紀要　第20号
　大谷大学真宗総合研究所　2003.9
大谷大学真宗総合研究所研究所報　第42号
　大谷大学真宗総合研究所　2003.4
新島襄生誕160年記念　Neesima Room　第24回企画展　若王子に眠る人びと―同志社墓地―
　同志社大学人文科学研究所内同志社社史資料室　2003.10
広報でみる同志社女子大学　展示目録
　同志社女子大学史料室　2003.11
佛教大学報　第53号
　佛教大学　2003.10
佛教大学　Head Line News 2003　佛教大学報別冊　Part 1 ～Part 2
　佛教大学　2003
学ぶこころ　近畿大学建学者　世耕弘一
　近畿大学世耕弘一先生建学史料室　2002.4
「我ガ生、難行苦行ナレドモ我ガ志、近畿大学トナレリ」I have lived hard, but I established Kinki University.　評伝・世耕弘一先生
　近畿大学世耕弘一先生建学史料室編　田島一郎著　2002.6
福岡大学大学史資料集　第一集
　福岡大学大学史資料室　2002.3
大学アーカイヴズ　No.29
　全国大学史資料協議会東日本部会　2003.10
第29回　全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会
　全国歴史資料保存利用機関連絡協議会　2003
史料館報　第79号
　国文学研究資料館史料館　2003.9
アーカイブズ　第12号
　独立行政法人国立公文書館　2003.7
平成14年度神奈川県立公文書館年報
　神奈川県立公文書館　2003.6
神奈川県立公文書館だより　第10号
　神奈川県立公文書館　2003.11
愛知県立公文書館だより　第八号
　愛知県立公文書館　2003.11
広島県立文書館紀要　第7号
　広島県立文書館　2003.3
広島県立文書館だより　第二十二号
　広島県立文書館　2003.7
福岡県史　通史編　近代産業経済（一）
　西日本文化協会　2003.3
柳川古文書館史料目録　第14集　西田家文書目録Ⅰ
　九州歴史資料館分館柳川古文書館　2003.3
柳川古文書館年報　第3集
　九州歴史資料館分館柳川古文書館　2003.3
野間研だより　No.13
　財団法人野間教育研究所　2003.8
DJIレポート　No.50～No.53・54合併号
　国際資料研究所　2003.5、2003.7、2003.9、2003.11
記念館だより　第31号

旧制高等学校記念館・旧制高等学校記念館友の会　2003.10

青陵会会報　復刊第一号
青陵会　2003.7

むすび［復刻版］第3巻の1、第4巻～第8巻
旧制福岡高校理独第19回生　悦友会
1942.1、1942.5、1942.12、1943.12、1945.3、1963.12

むすび　第8巻～第20巻
旧制福岡高校理独第19回生　悦友会
1963.12、1975.12、1976.12、1978.3、1979.5、1981.11、1983.2、1984.12、1986.5、1992.10、1999.8、2000.12、2001.8

むすび　60年間に20巻のクラス誌
旧制福岡高校理独第19回生　悦友会・松永英剛

旧制佐賀高等学校　菊葉　第四十二号
菊葉編集委員会　2003.11

＊大学史・高等教育史、アーカイブ関係図書を中心に受贈図書の一部を掲載した。

## 大学史料室日誌抄録（2003年7月～2003年12月）

7.2（水）　総務課より資料移管。

7.4（金）　森祐行名誉教授より資料寄贈（7月28日も同様）。

7.7（月）　第1回ロゴマーク等検討ワーキンググループ開催（折田助教授「九州大学「学生バッチ」の歴史」発表。12月8日、第2回ワーキンググループ開催、折田助教授出席）。
古賀英俊氏（青陵会会員）来室、資料寄贈。

7.9（水）　国際交流課より資料移管（7月17日も同様）。
折田助教授、医学部百年史編集委員会に出席（7月24日、8月27日、9月17日、10月27日も同様。於医学部）。

7.10（木）　読売新聞記者、取材のため来室（新谷副室長・折田助教授応対）。

7.14（月）　研究協力課より資料移管（7月16日も同様）。

7.16（水）　企画広報室、留学生課より資料受領。「大学とは何か―ともに考える―」の一環として、箱崎地区（キャンパス）見学を実施（折田助教授説明）。

7.17（木）　花田清二・松永英剛氏（青陵会会員）来室、資料寄贈。

7.23（水）　小泉直彦氏（工学部卒業生、第6代総長荒川文六令孫）より資料寄贈（8月17日も同様）。

7.24（木）　大学院人間環境学府学生、資料調査のため来室（7月30日、8月5日、6日、29日、9月1日、17日も同様）。

7.25（金）　山口宗之名誉教授より資料寄贈。

7.30（水）　松田正次氏（青陵会会員）より資料寄贈。
吉本清一医療技術短期大学部元教授、来室（8月20日も同様）。
秘書掛より資料受領。

8.4（月）　斉藤一馬・伊東一義氏（青陵会会員）来室、資料寄贈。
大学院人間環境学府学生、資料調査のため来室（8月7日、12日、19日、26日、28日、9月22日、25日、29日、10月16日、23日、28日、11月4日、12月2日、3日も同様）。

8.14（木）　契約課用度掛より資料受領。

8.19（火）　医学部創立百周年記念事業後援会事務局より来室（9月26日、10月9日、15日、11月18日も同様）。

8.21（木）　冨吉建周九州産業大学教授、資料調査のため来室（8月22日、9月11日も同様）。

8.27（水）　小林晶・原寛氏（医学部卒業生）、資料調査のため来室。

8.28（木）　山川健次郎顕彰会（福島県会津若松市）一行、梶山総長を表敬訪問（折田助教授列席、説明）。

9.3（水）　学務部より資料受領。

9.5（金）　福岡進学情報サービス室より資料寄贈。

9.8（月）　大学院工学研究院（地球資源システム工学部門）より資料受領。

9.10（水）　箱崎まちづくり協議会より資料調査のため来室。
施設部新キャンパス計画推進室・整

備計画課より6名来室（折田助教授、「九州大学の歴史」につき説明）。

9.12（金）理学部庶務掛より資料調査のため来室。

9.17（水）斉藤一馬氏（青陵会会員）より資料寄贈（10月1日、15日、12月5日も同様）。

9.20（土）折田助教授、2003年度教育史学会大会参加（～21日。於同志社大学）。

9.24（水）施設部より資料受領。

9.25（木）調憲医学部附属病院講師、資料調査のため来室（11月6日も同様）。

9.30（火）『KYUSHU UNIVERSITY ARCHIVES』No. 4（パンフレット）刊行。

10.1（水）折田助教授、2003年度全国大学史資料協議会総会・全国研究会に参加（～3日。於長崎大学）。

10.2（木）荒川和生氏（第6代総長荒川文六令孫）より資料寄贈（荒川文六関係資料）。

10.4（土）有川室長、広島大学文書館設立準備企画（公開プレ・シンポジウム）「大学・編纂・文書館」において講演（「大学改革と文書館」。於広島大学附属図書館中央図書館。新谷副室長・折田助教授・片山事務官参加）。

10.8（水）入試課より資料受領（11月20日も同様）。

10.10（金）折田助教授、2003年度後期全学共通教育科目「九州大学の歴史」開講。
高仁淑大学院人間環境学研究院助手、資料調査のため来室（10月28日、31日も同様）。

10.15（水）秘書掛より資料受領（初代総長山川健次郎録音テープ）。

10.31（金）『大学史料室ニュース』第22号刊行。

11.7（金）西山峰雄氏（青陵会会員）来室。
総務課より資料受領。

11.10（月）高橋照男岡山大学名誉教授、資料調査のため来室。
第26回日本医学会総会事務局（大学院医学研究院内）より資料寄贈。

11.14（金）人事課より資料受領。

11.15（土）新谷副室長・折田助教授、2003年度九州教育学会に参加（～16日。於大分大学）。

11.19（水）調憲九州大学病院講師より資料寄贈。

11.20（木）折田助教授、全国大学史資料協議会東日本部会にて講演（「国立大学アーカイブ私論」。於明治大学）。
東洋大学井上円了記念学術センターより、九州大学学生バッジの件につき照会、回答。

11.22（土）折田助教授、2003年度大学史研究会セミナーに参加（～23日。於関西学院大学）。

11.26（水）第21回文化財ワーキンググループ開催（折田助教授出席）。

12.1（月）統合移転推進室より資料受領。

12.4（木）佐藤裕氏（北九州市立若松病院）より資料寄贈。

12.10（水）所沢潤群馬大学教育学部教授より資料寄贈。

12.13（土）折田助教授、京都大学百周年時計台記念館（京都大学大学文書館）竣工式典に参加。

12.18（木）慶應義塾福澤研究センターより資料寄贈。

12.25（木）学務部より資料受領。

12.26（金）医学部同窓会より資料寄贈。

九州大学大学史料室ニュース　第23号

Kyushu University Archives

発行日　2004年3月31日（年2回刊）

編集
発行　九州大学大学史料室
〒812-8581 福岡市東区箱崎6－10－1
電話・FAX　(092) 642-2292

印刷　株式会社ミドリ印刷